

昨年の大震災後、皆さんは被災地を思い、なんとかしたい、何かできることをしたいと思われたことでしょうか。ボランティア活動等をされた方も多くおられると思います。

私も、日常勤務する朝霞台中央総合病院の母体である戸田中央医科グループ全体で取り組んだ災害支援活動に一員として参加することができました。それは、震災直後の救援ではなく、津波で被害を受けた地元の病院に、応援に入り、その病院の職員の皆さんとともに、残された病院の機能を活かして、その被災地の医療を提供し続けようとする取り組みでした。活動の拠点は、岩手県の県立山田病院。震災から1ヶ月が経過して、被災者の多くは体育館等の避難所で生活され、インフルエンザやノロウイルスによる下痢が流行っている時期となりました。高血圧等の慢性疾患の管理も重要な課題でした。

県立山田病院は、山田町（人口18000人 カキ養殖を中心とする漁業の町）の唯一の入院ベッド（60床）を持つ病院でした。2階建てですが、1階部分を襲った

津波により、外来、検査の施設は完全に失われていました。2階部分は無事で、入院患者さんも無事でした。ここを拠点に、医療支援に就かせていただきましたが、電気はかろうじて使えるが、水道は仮設1ヶ所のみ、トイレも仮設トイレです。そこから見渡す町並みといえば、どこまでも広がる壊滅した風景、何もかもを奪っていった津波の恐ろしさ、そして多くの命までも、現地に赴くまで、想像できるものではありませんでした。そこで、可能な限りの24時間診療と、20箇所以上の避難所の巡回診療を開始しました。医療が必要な人に迅速に医療を提供すること。それを地元の医療スタッフと一緒に活動することで効率よく、取り残される患者さんがいないようにきめ細かく活動を行いました。避難所では、多くの人々が、寄り添って、しかし整然と、集団生活をおくられていました。足りないものだって、沢山あるのに、不平を聞いたことはありません。そこには、東北の人々の辛抱強さ、そして住民同士の強い結びつきがありました。

今回の震災は、直後に急性期の医療を必要とする患者さんは、多くはありませんでした。しかし、被災地は広大で、被災された方が多く、残念ながら直後には支援に行けなかった我々でしたが、その後の長期にわたって不足する医療を、少しでも提供する活動をさせていただけただけことは、大変よい経験となりました。今後は、震災直後から、支援できる体制作りを、グループ全体で取り組んでいく所存です。

そして、被災地を見て感じたのは、やはり地域の人々の結びつきが強く、顔見知りであるというのは、避難生活を通じても大事だということです。私も市民として、身近な近隣の方との付き合いからはじめなくてはいけないと思っています。

朝霞地区でも、今回の震災で、行政、警察、消防、医師会、病院自衛隊と、それぞれの立場で活動された方々の報告会がありました。日ごろから、お互いをよく知り、それぞれ指揮系統は違いますが、横のつながり、顔を知る関係ができるような、そんな訓練・体制ができたなら本当に心強いと思います。

わたしたちの健康

日曜・休日に実施している医療機関

午前10時～午後4時

月日	場所	施設名	科目	☎(048)	場所	施設名	科目	☎(048)	
6	3	和光	わこうキッズえきまえ こどもクリニック	小	466-9816	朝霞	上野胃腸科	消内・内・放・ 外・皮	461-6565
	10	朝霞	新谷医院	内・消内・呼内・ 循内	461-3238	志木	志木北口クリニック	心内・精・神	471-2661
	17	朝霞	石原クリニック	消内・内・外・肛	486-1890	朝霞	北朝霞藤宮眼科	眼	474-1417
	24	新座	高橋医院	内・小	478-2689	志木	かとう整形外科・ リハビリテーション科	整外・リハ	486-3770



※当番医は変更になる場合もあります。確認してからお出かけください。